谷川岳　オジカ沢
平成 23 年 10 月 9 日～10 日
メンバー：平本（L）、早川、熊崎（記）
10 月 9 日（日）晴れ
昨夜、みなかみ町の道の駅にテントを張って泊る。翌朝、まだ暗い時間にどこかの車のクラクションで起こされる。谷川温泉奥の駐車場に車を停め、出発。寝不足だが、今日は長丁場となるので、半分寝ながらでも登山道を急ぐ。ヒツゴー沢を渡り、中ゴー尾根の取付きで沢靴に履き替え、オジカ沢に入る。河原を少し行くと 15m 滝が現れ、水流右側の岩壁をザイルを出して登る。平本さんリード。残置ハーケン数本あり。出だしが外傾していていやらしい。中間で水流に向かってトラバースし、上半部は水流沿いに登る。すぐ上に 8m 滝があり、ここは草付の左斜上バンドを落口の高さまで登り、笹藪を掴んで落口に向かってトラバースする。自分がリード。フェルト底はよく滑る。滝の上流は、両岸草付壁が高い見事な V 字谷となり、奥には幕岩の岩壁が高く聳える。小滝を直登したり巻いたりして進む。深い釜のある 5m 滝は腰まで浸かって左の凹状に取り付き落口の高さまで登りトラバースした。先に登った平本さんにお助けを出してもらう。沢が右折する所に 5m 位の滝が 2 つ続けてかかる。登山大系のネジレの滝と呼ばれる滝だろうか。直登は難しそうなので、左の草付壁を登って巻くことにする。平本さんリードで 40m 程登り、灌木帯でピッチを切る。そこから自分がリードで右へトラバースする。落口上の沢床まで 10m 位の高さがあるが、草付をクライムダウンできる。しかし、次の 8m 位の滝が少し難しそうだったので登り直してさらに巻く。50m いっぱい。この 2 ピッチの通過で 1 時間半以上かかってしまった。ここを越えると左岸側にスラブが広がり、遠くに 40m 大滝が見える。大滝手前にはいくつも滝がある。2 条 8m 滝は右からへつった後、壁を登るが、へつりの部分が 1 か所滑りそうで悪かった。平本さんにザイルを出してもらう。6m 滝は簡単に越えるが、次の赤茶色の 6m 滝は登れず、左から巻こうとするが、高く追い上げられ、滝上に降りるのが難しそうなので、一旦戻り、水流左の岩をザイルを出して登る。平本さんリ

ード。ハーケン 1 本打つ。さらに 7m 滝を右から登ると、ようやく 40m 大滝下に着く。記録ではそれほど難しくないとあるが、大きさに圧倒されてかとても悪そうに見える。1P 目、早川さんがリード。水流のすぐ右をシャワーを浴びながら登る。今日は晴れているからそんなに寒くはない。残置はなく、3 か所ハーケンを打つ。思ったよりもホールド、スタンスがあり、岩も硬く快適に登れた。すぐ上に 20m チムニー滝があり、自分がリードで登る。滝の右側の岩壁を登った。出だしの急な部分をガバを掴んで強引に乗越すと、見た目より易しいランペ状のフェースとなる。ランペ状をそのまま登ると悪くなりそうなので、適当な所で右側の段差を越えて、その上のフェースを落口まで登る。ボロボロの残置ハーケン、リングボルト、小灌木でランナーを取った。落口にも残置ハーケンが 1 本あった。さらに 10m チムニー滝が続く。その上にも 10m 位の滝があるようだが壁に隠れて飛沫しか見えない。Web の記録では水流の右側岩壁を登っているが、難しそうに見える。平本さんがザイルを出して右側の急な岩混じりの灌木帯から巻いて様子を見るが、上段の直登はかなり水を被るようで、そのまま灌木帯を巻くことにする。落口を過ぎた所から捨て縄を使って 20m 程懸垂下降する。この巻きで 2 時間近くもかかってしまった。真夏に直登すればもう少し短時間で登れたかもしれない。既に 17:00 を過ぎて、うす暗くなってきた。ここで泊れなくもないが、もう少し上の二俣が泊れるとの記録があるので先を急ぐ。右から支沢が入り、本流はくの字に曲がった 10m 滝となる。暗いし、なんとなく難しそうなので、少し手前左岸の傾斜の緩い岩を登って、10m 滝の上の小滝もまとめて巻く。灌木にザイルを引っ掛けて 2～3m 程度懸垂して沢に戻る。簡単なナメ滝をいくつか越えていくと二俣に着く。期待した程には広くなく石ころだらけだったが、15 分位の土木工事で平坦に整地できテントを張れた。曇りのせいか意外に暖かく、飯は十分だし、酒もあるしで、快適な夜であった。背後に真っ黒い幕岩の岩壁が天を突くように聳えていたのが印象的だった。

【タイム】　谷川温泉駐車場発

５：４５二俣７：２０40m 大滝下１３：３０80m 滝手前の二俣１７：１５

10 月 10 日（月祝）晴れ
昨晩の雲が晴れて朝から良い天気。周囲は紅葉していて清々しい。頭上には幕岩の岩壁が高い。上流にはこれから登る 80m 滝が見える。細長い淵をもった小滝をつるつるの側壁を登ったり巻いたりしていく。80m 滝手前には深い釜のある 5m 位の滝があって右岸の傾斜の緩い草付を登って巻き、滝上には歩いて降りられた。降りた所が 80m 滝の真下になる。平本さんトップで水流すぐ左の壁を登る。壁の左側には 1m 位の段差が上方へ延びていて、20m 位登った所でこの段差を左側へ乗越し、さらに 20m 位の易しい岩場を登ると広いテラスに着く。途中、ハーケン 3 本打つ。もう少し早目に段差を乗越していればもっと簡単だったかもしれない。2 ピッチ目は自分がトップで登る。水流沿いはホールドが少なそうだったので、ほとんど左側の草付を登った。3 ピッチ目は平本さんトップでそのまま草付を進み滝の落口に出た。左に曲がって、すぐ両岸壁に挟まれた 10m 程度の滝となり、左の草付、笹藪から巻く。その上にもう一つ 8m 位の滝があり、まとめて巻く。滝上で左岸から支沢が入る。ここまで来ると、稜線が近くに見え源頭の雰囲気となるが、小滝をいくつか越えていくと、脆そうな壁と急な草付に囲まれた 12m 滝が現れる。水流右の岩を登っている記録もあり、左岸の草付を巻き気味に登るのが良いとの意見もあったが、脆そうに見える。ここはザイルを出して、滝の 30m 位手前から、右岸の岩を 5m 位登ってトラバースし、傾斜の緩くなった岩の上を進み、そのまま滝の左側の草付を登る。50m 1 ピッチ、自分がトップで登る。終了点からは 5m 程度のクライムダウンで沢床に降りられた。この上で三俣となる。右は水量が多く、左は沢床が低く大きく抉れているが、記録に従って、一番しょぼそうな中俣に入る。連続する小滝を直登したり、草付を登ったりしながら快適に登る。俎グラ尾根の豪快な稜線が見え始めると水が涸れ、ガレや草付を登り、最後に丈の低い笹を漕いでいくと、オジカ沢の頭の避難小屋が見え、俎グラ尾根

の最上部に出る。そこからわずかでオジカ沢の頭の避難小屋に着いた。オジカ沢の頭でのんびり休憩した後、紅葉を眺めながら急峻な国境稜線を進み、中ゴー尾根を下った。途中、昨日、今日と登ってきた 40m 大滝や 80m 大滝を眺めることができた。

【タイム】　dep.７：００80m大滝上１０：００稜線１２：３０二俣１６：００谷川温泉駐車場１７：００

40m 大滝　1P 目

20m チムニー滝

40m 大滝

80m 大滝